

# 埼玉県コンテナラウンドユース推進の取組

平成27年度検討結果概要と平成28年度の活動内容について



平成28年7月26日 第5回埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会  
埼玉県 都市整備部 都市計画課 1

## 目次

### 1. SCRUの取組状況

### 2. 平成27年度検討結果概要

### 3. 平成28年度の協議会の活動内容

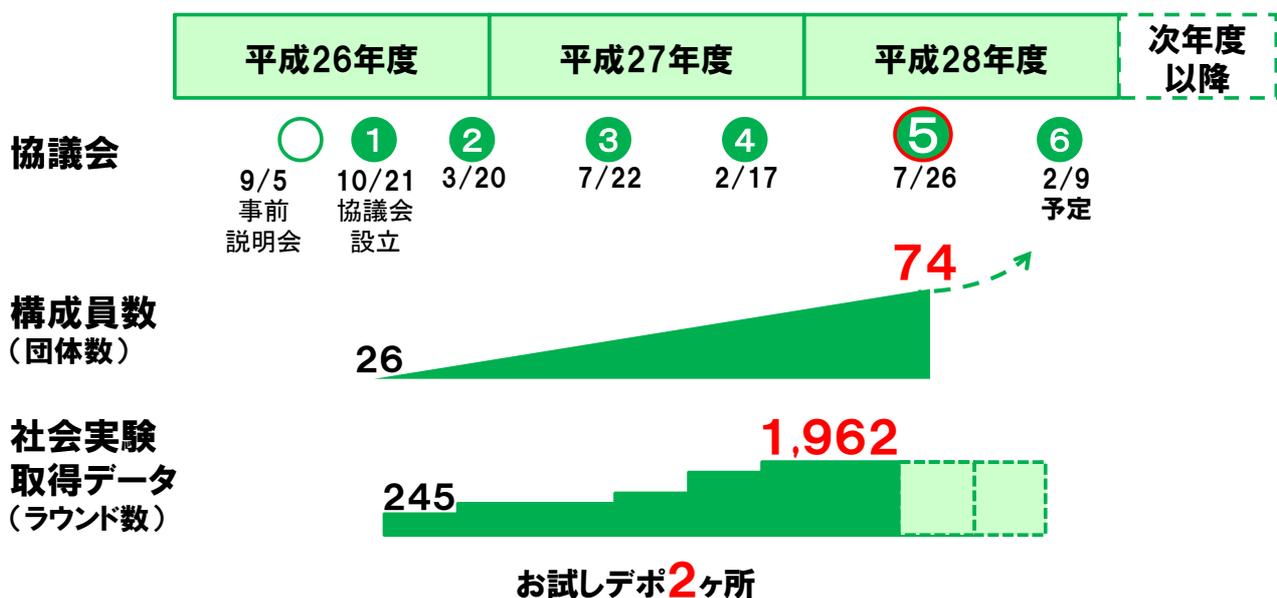
## 1. SCRUの取組状況

## 2. 平成27年度検討結果概要

## 3. 平成28年度の協議会の活動内容

3

### 取組の経過状況

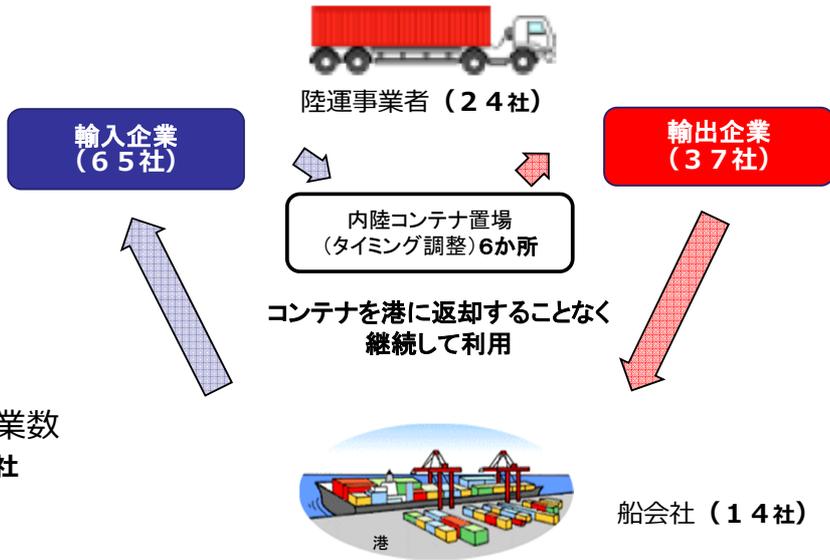


4

# 社会実験報告件数 と 参加企業数

## 【社会実験】

報告件数 **1,659件**  
 (内貨転用11件含む)  
 (H28.1月末までの実績)  
 1ラウンド：1件



CRUに取り組み企業数  
 合計 **146社**

# 効果

## 【社会実験】

■ **コンテナ輸送距離 33.4%減**  
 平均74.4km減/ラウンドユース1回  
 コンテナラウンドユース実施前 367,281km → 実施後 245,803km

■ **輸送時間 39.6%減**  
 平均4.7時間減/ラウンドユース1回  
 コンテナラウンドユース実施前 19,753時間 → 実施後11,936時間

※算定条件  
 走行距離及び所要時間は国土交通省NITAS(全国総合交通分析システム)により計測  
 港の待ち時間は、東京港60分、横浜港50分、川崎港10分として試算  
 (\*東京港と横浜港は、各県トラック協会による「コンテナターミナルにおける海上コンテナ車両待機時間調査結果」に基づき概ねの平均値として設定。川崎港は川崎市ヒアリング結果に基づく)  
 内貨転用は、輸入側のみ効果を試算

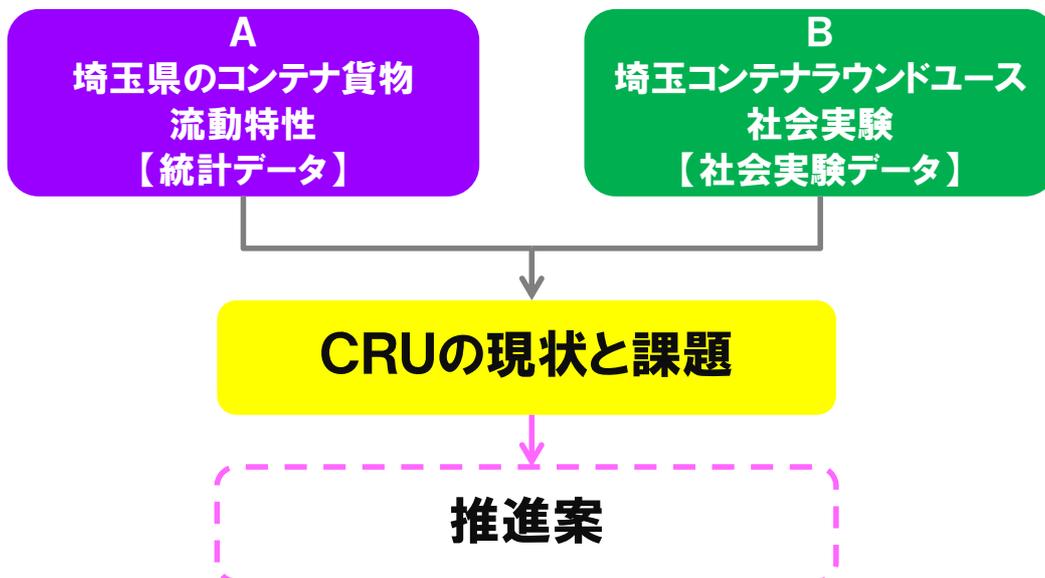
■ **CO<sub>2</sub> 130.0トン削減(総計)**  
 ↑ スギ 9,278本/年 CO<sub>2</sub>吸収相当  
 ※算定資料 経済産業省及び林野庁  
 輸送距離の削減に加え、港の待ち時間でのアイドリング削減も燃料消費量1.25L/hで試算し加えている

■ **輸送コスト 21.2%減**  
 ※算定条件 S58タリフ  
 埼玉県都市計画課 試算  
 (H28.1月末までの実績に基づく試算結果)

1. SCRUの取組状況

2. 平成27年度検討結果概要

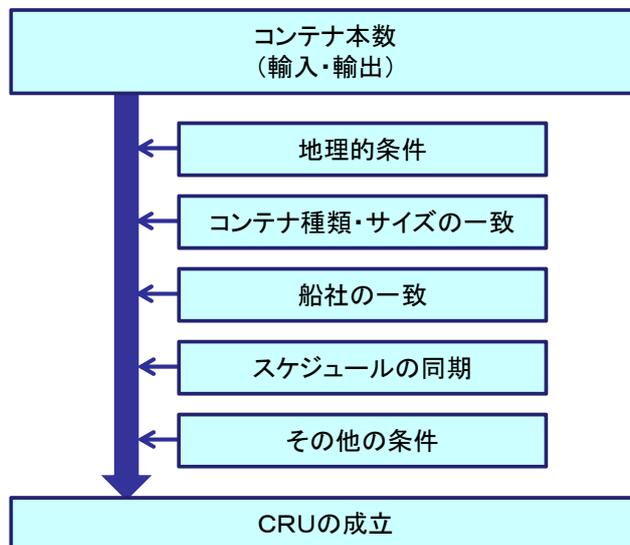
3. 平成28年度の協議会の活動内容





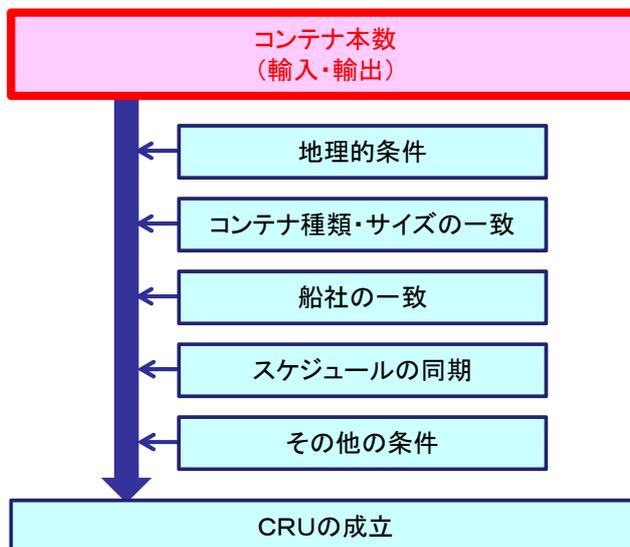
# CRUの成立条件

## CRUの成立フロー



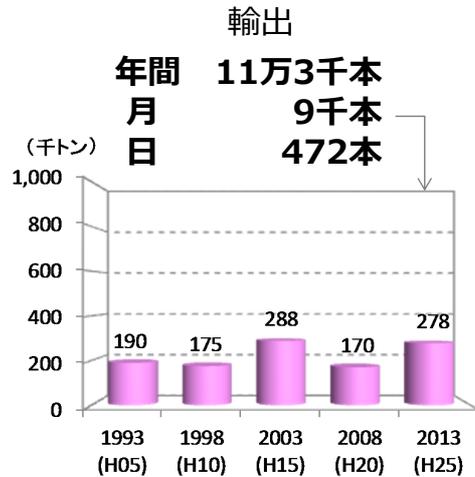
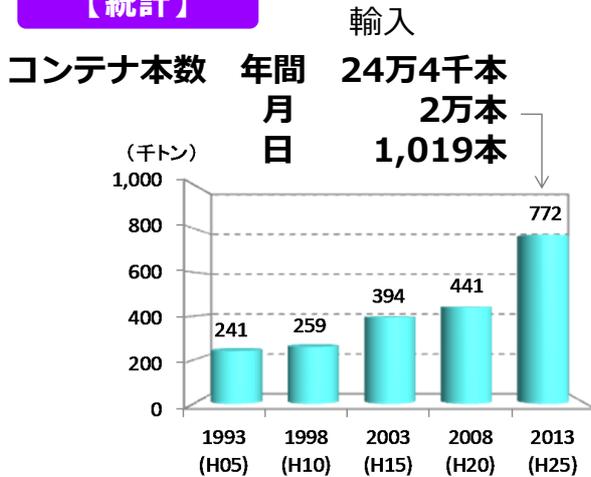
# CRUの成立条件

## CRUの成立フロー



# 埼玉県のコンテナ貨物量

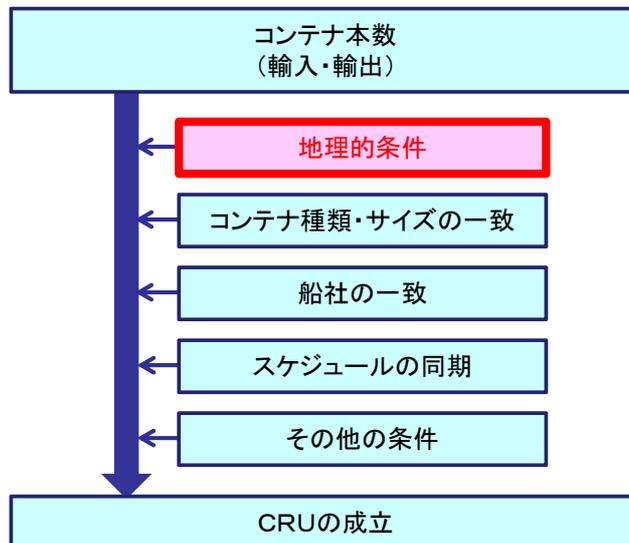
**【統計】**



資料:「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」(国土交通省、H5～H25)に基づき作成。  
 ※埼玉県を輸入の消費地、輸出の生産地とする貨物量(フレートトン)。  
 ※H5～H20は10月、H25は11月に実施した調査(1ヶ月間調査)。コンテナ本数は、H25から調査開始。年間、日の本数は、月値から換算。  
 ※なお、2008年値は、2008年9月15日リーマンショックの影響で全国的に少ない。

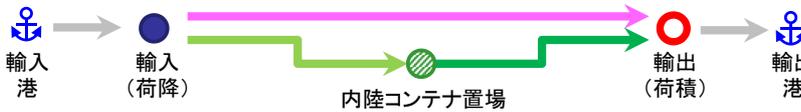
# CRUの成立条件

## CRUの成立フロー



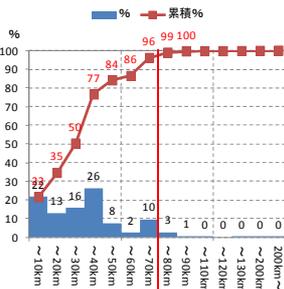


【社会実験】



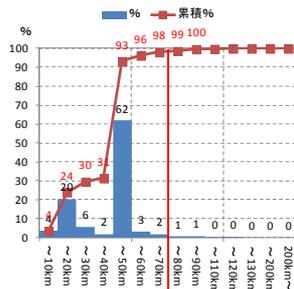
**直送型**  
(輸入荷降→輸出荷積)

平均 29km

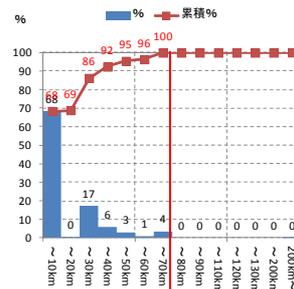


**内陸コンテナ置場利用有**  
(輸入荷降→内陸コンテナ置場) (内陸コンテナ置場→輸出荷積)

平均 38km

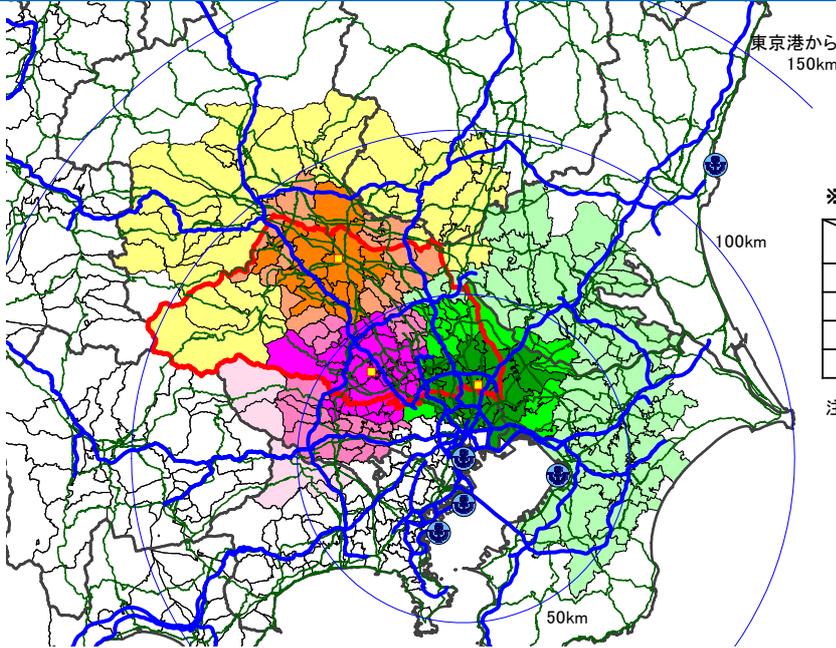


平均 11km



95%が  
70km以内

# CRUの可能圏域



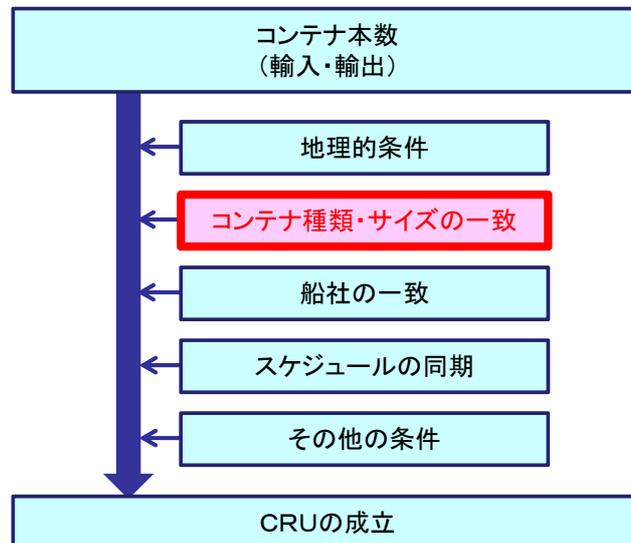
※仮に県内3ヶ所にデポを置いた場合の道路距離圏

	タツミデポから	八潮運輸デポから	熊谷貨物ターミナル駅から
~20km	紫	緑	赤
~30km	黄緑	黄	オレンジ
~70km	淡紫	淡緑	淡黄
70km~	白	白	白

注：・仮に県内に3ヶ所のデポを置いた場合、各デポを起点として道路距離70km圏内に市区町村役場が含まれる範囲をそれぞれのデポの圏域とした。  
 ・なお、東京港からの道路距離の方が近い場合は、除いている。  
 ・走行距離は、国土交通省NITAS(全国総合交通分析システム)により、計測。

# CRUの成立条件

## CRUの成立フロー

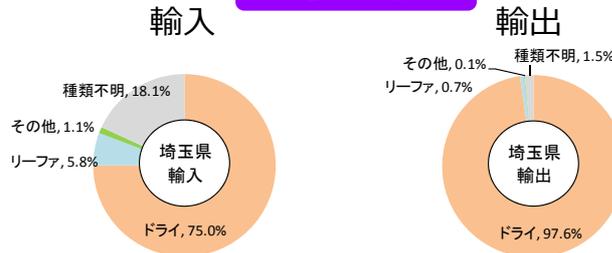


# コンテナ種類・サイズ

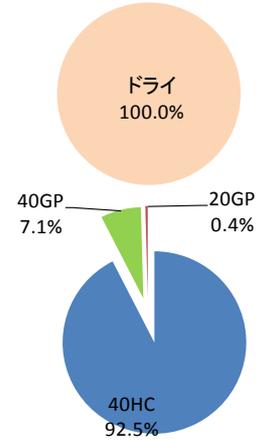
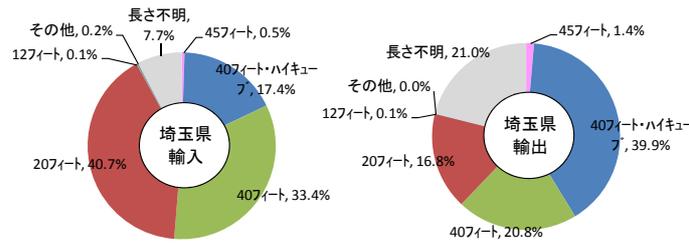
## 【統計】

## 【社会実験】

### コンテナ種類



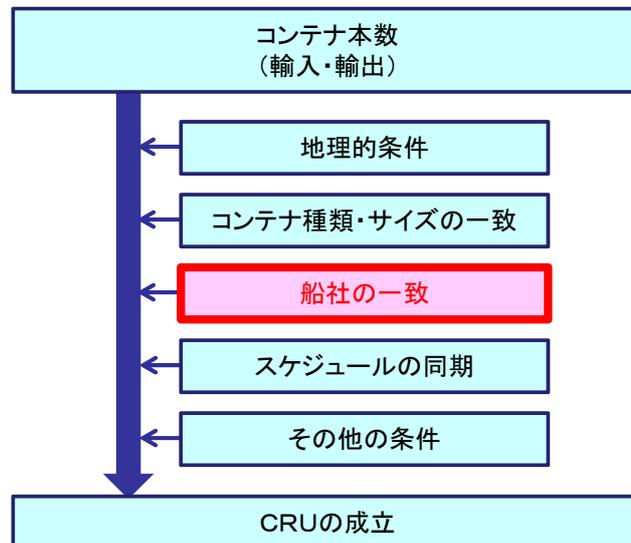
### コンテナのサイズ (ドライコンテナ)



資料:「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」(国土交通省、H25) に基づき作成。  
コンテナ本数ベースの集計値。  
グラフの埼玉県とは輸入の消費地又は輸出の生産地が埼玉県の貨物。

# CRUの成立条件

## CRUの成立フロー



## 船社の一致率



仮に、県内におけるA船社の輸出入シェアがともに10%だとすると、船社の一致率は、 $1/10 \times 1/10 = 1/100 = 1\%$ 。  
10社合計で、船社の一致率の合計は10%。

NO	船社名	輸入シェア		輸出シェア		船社の一致率
1	A船社	1/10	×	1/10	=	1/100
2	B船社	1/10	×	1/10	=	1/100
3	C船社	1/10	×	1/10	=	1/100
4	D船社	1/10	×	1/10	=	1/100
5	E船社	1/10	×	1/10	=	1/100
6	F船社	1/10	×	1/10	=	1/100
7	G船社	1/10	×	1/10	=	1/100
8	H船社	1/10	×	1/10	=	1/100
9	I船社	1/10	×	1/10	=	1/100
10	J船社	1/10	×	1/10	=	1/100
10社合計						$10/100 = 10\%$

19

## 船社の一致率



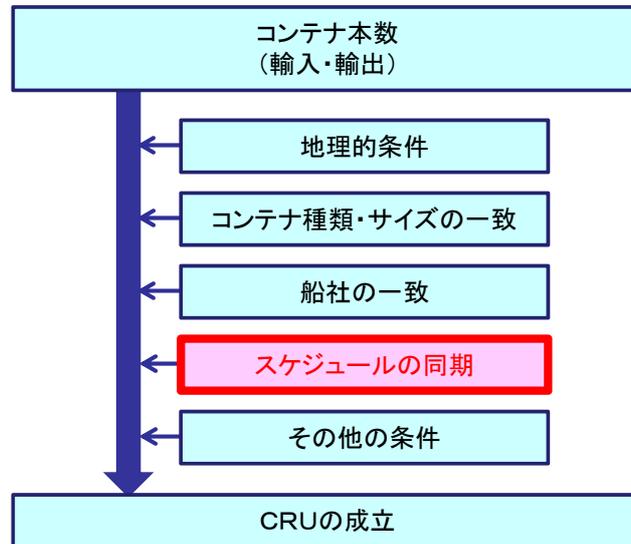
仮に、県内におけるA船社の輸出入シェアがともに5%だとすると、船社の一致率は、 $5/100 \times 5/100 = 25/1000 = 0.25\%$ 。  
20社合計で、船社の一致率の合計は5%。

NO	船社名	輸入シェア		輸出シェア		船社の一致率
1	A船社	5/100	×	5/100	=	25/10000
2	B船社	5/100	×	5/100	=	25/10000
3	C船社	5/100	×	5/100	=	25/10000
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
18	R船社	5/100	×	5/100	=	25/10000
19	S船社	5/100	×	5/100	=	25/10000
20	T船社	5/100	×	5/100	=	25/10000
20社合計						$500/10000 = 5\%$

20

# CRUの成立条件

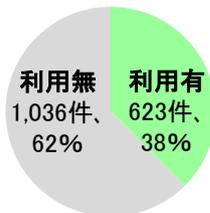
## CRUの成立フロー



# 内陸コンテナ置場の利用状況

### 【社会実験】

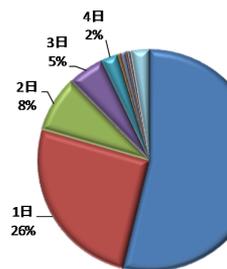
#### 内陸コンテナ置場の利用状況



#### 荷降日から荷積日間の日数

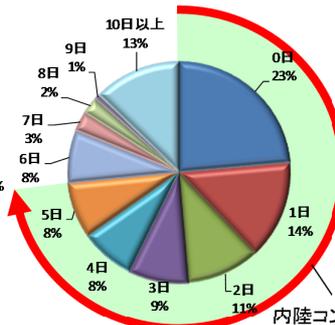


#### 内陸コンテナ置場・利用無



当日が54%、翌日までで80%

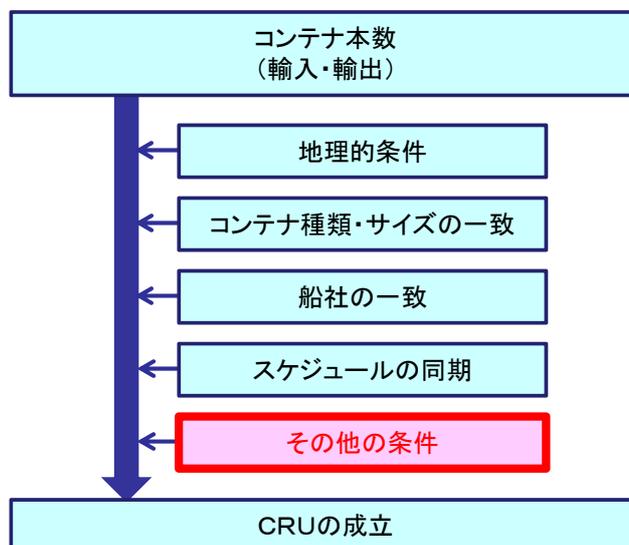
#### 内陸コンテナ置場・利用有



内陸コンテナ置場での滞留は5日以内が73%

## CRUの成立条件

### CRUの成立フロー



## その他のCRU成立条件

### 企業ヒアリングから得られた意見

メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ ドライバー不足への寄与</li> <li>➢ 輸送コストの削減</li> <li>➢ CO<sub>2</sub>等環境負荷軽減</li> <li>➢ 顧客に対する営業の材料</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 管理の手間の増加</li> <li>➢ コンテナチェック作業の発生</li> <li>➢ コンテナダメージの責任に対するリスク（事故リスク）</li> <li>➢ コンテナの内陸での滞留リスク（空ポジリスク）</li> <li>➢ 顧客流出の可能性</li> </ul>
CRUの成立条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ CRUのパートナー探しのための出会いの場が必要</li> <li>➢ タイミング調整のための内陸コンテナ置場（デポ）が重要</li> <li>➢ 船社的一致がネック ⇒船社の巻き込みが必要 ⇒SOCへのチャレンジが必要</li> <li>➢ コンテナのグレードの問題</li> <li>➢ 運営方法の問題（情報共有方法、デポ活用有無 等）</li> <li>➢ 責任範囲の明確化が課題</li> <li>➢ 広域連携が重要</li> </ul>



◆ マッチングにおける課題

- 情報共有
- コンテナ本数の拡大
- CRU新規導入検討企業の取り込み

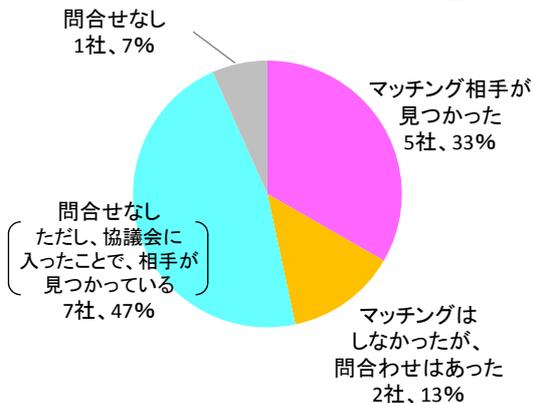
◆ 成立条件に関する課題

- 内陸コンテナ置場の利用拡大
- SOC、内貨転用



前回協議会で「CRUのパートナー募集情報」を公開した企業のその後

N=15社



別紙 CRUのパートナー募集情報

No.	業種	業名	所在地	従業員数	売上高	資本金	設立年	備考
1	製造業	株式会社〇〇	東京都	100	1000	1000	2010	
2	製造業	株式会社〇〇	東京都	50	500	500	2015	
3	製造業	株式会社〇〇	東京都	200	2000	2000	2008	
4	製造業	株式会社〇〇	東京都	80	800	800	2012	
5	製造業	株式会社〇〇	東京都	30	300	300	2018	
6	製造業	株式会社〇〇	東京都	150	1500	1500	2005	
7	製造業	株式会社〇〇	東京都	60	600	600	2013	
8	製造業	株式会社〇〇	東京都	40	400	400	2016	
9	製造業	株式会社〇〇	東京都	120	1200	1200	2009	
10	製造業	株式会社〇〇	東京都	70	700	700	2014	
11	製造業	株式会社〇〇	東京都	90	900	900	2011	
12	製造業	株式会社〇〇	東京都	110	1100	1100	2007	
13	製造業	株式会社〇〇	東京都	55	550	550	2017	
14	製造業	株式会社〇〇	東京都	130	1300	1300	2006	
15	製造業	株式会社〇〇	東京都	65	650	650	2019	

今回の「CRUのパートナー募集情報」資料1別紙ご参照ください

1. SCRUの取組状況

2. 平成27年度検討結果概要

3. 平成28年度の協議会の活動内容

◆ マッチングにおける課題

情報共有

コンテナ本数の拡大

CRU新規導入検討企業の取り込み

◆ 成立条件に関する課題

内陸コンテナ置場の利用拡大

SOC、内貨転用

分科会

## 分科会について

### ねらい

◆CRUの実務レベルの議論の場として分科会を設置

### 実施方針

- 民を主役とした分科会運営
- 参加メンバー全員によるフリーな討議
- 年度内全6回程度を目処に、柔軟に運営

### ルール

- ◇参加者はすべて対等  
CRUの経験者と未経験者、ともに学び合おう  
自分のため、相手のため、みんなのため
- ◇社会通念や常識にとらわれない新しい発想  
多彩なアイデアを持ち寄りましょう！！



## 分科会について

参加者募集！

分科会名	テーマ	世話役	実施時期と内容	事前アンケート
CRU先進部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ SOC</li> <li>➢ 内貨転用</li> </ul>	濃飛倉庫運輸(株) 日本高速輸送(株) 日本フレートライナー(株)	【日時】 H28.8.30(火)午後 【場所】 埼玉県庁周辺 【内容】 ・各方式の詳細説明 ・SOCや内貨転用の実施可能性についてフリーディスカッション	18社
輸出入情報共有部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 情報共有の仕方について</li> <li>➢ マッチング相手探し</li> </ul>	日本通運(株)	【日時】 H28.8.30(火)午後 【場所】 埼玉県庁周辺 【内容】 ・輸出入情報共有の可能性についてフリーディスカッション	19社
お試しデポ体験部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ デポ見学</li> <li>➢ コンテナチェック講習</li> </ul>	タツミトランスポート(株) 八潮運輸(株)	【日時】 H28.10月中・下旬予定 【場所】 タツミデポ(狭山市) 八潮運輸デポ(八潮市) 【内容】 ・デポ見学(コンテナチェック講習等)	7社

残り開催予定 【日時】 H28.11月下旬予定 【内容】 皆様が議論したい事項 + マニュアル検討  
 【日時】 H29.3月中旬予定 【内容】 皆様が議論したい事項 + 次年度方針検討



## ◆ マッチングにおける課題

情報共有

コンテナ本数の拡大

CRU新規導入検討企業の取り込み

**国際物流総合展**

への出展

コンテナラウンドユースの

紹介・導入促進**動画**

## ◆ 成立条件に関する課題

内陸コンテナ置場の利用拡大

SOC、内貨転用



### ねらい

- ◆ 協議会(SCRU)と構成員の活動のPRの場
- ◆ 新たな仲間の獲得

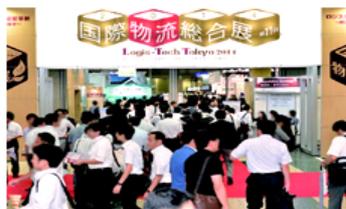
### 出展者名

埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会

### 国際物流総合展とは

国内最大規模の物流の展示会、2年に1回開催

名称	国際物流総合展2016 LOGIS-TECH TOKYO 2016
目的	内外の最新物流機器・システム・サービス等のソフトとハードを一堂に結集し、交易振興・技術の向上・情報の提供・人的交流等を促進することを目的とする。
メインテーマ	物流展で見つけよう～課題解決のネクストステップ～
会期	2016年9月13日(火)～16日(金) 10:00～17:00
会場	東京ビッグサイト(東京国際展示場)
主催	一般社団法人 日本産業機械工業会、一般社団法人 日本産業車両協会、一般社団法人 日本パレット協会、一般社団法人 日本運搬車両機器協会、一般社団法人 日本物流システム機器協会、公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会、一般社団法人 日本能率協会
出展対象	保管機器システム、仕分けシステム、ピッキングシステム、搬送システム、産業車両、運搬車両、パレット・コンテナ、サードパーティロジスティクス、エンジニアリング・コンサルティング、情報機器・ソフトウェア、保管・輸送サービス、物流機器部品、物流業務支援製品・サービス、リスクマネジメント、トラック、出版、団体 集中展示コーナー『拠点進出ソリューション』『環境にやさしい包装システム』
来場対象	運輸・倉庫、小売・卸売・商社、機械・精密機械、輸送用機器、電気・電子、食品、化学・エネルギー、建設・土木、鉄鋼・金属、医薬・化粧品、紙・パルプ、繊維・アパレル、情報・サービス、出版、官庁・団体・学校
展示予定規模	450社/1,850小間(前回418社/1,701小間)
入場登録料	¥1,000(消費税込)※招待状・事前登録証をご持参の方は無料
来場登録予定者数	60,000名(前回54,686名)
入場予定者数	135,000名(前回132,503名)



## 国際物流総合展への出展について



### ブース出展

【日時】 H28 (2016) .9.13 (火) ~ 16 (金)  
10:00~17:00

【展示内容】・CRUのパンフレット、動画、パネル 事前アンケート 希望5社

- ・構成員のCRUに関するPR資料 **募集!**
- ・埼玉県の地域情報(企業誘致、観光等)

(※資料は、8/31(水)までに300部ご提供ください)



### プレゼンテーションセミナー

【日時】 H28 (2016) .9.16 (金) 11:00~11:30

【場所】 セミナーB会場

(30分間、座席数100名、参加料無料)

【テーマ】 埼玉県から始まる構成員相互で推進する  
海上コンテナ物流の効率化  
- 取組概要と事例発表 - 事前アンケート 希望6社

**希望者募集!**

No	時間	発表内容(案)	発表者(案)
1	4分	埼玉県におけるコンテナラウンドユースの取組紹介	埼玉県
2	5分	※動画 コンテナラウンドユースのすすめ ~埼玉県でつながるラウンドユースの輪~	(埼玉県)
3	5分		
4	5分	(希望者から調整予定)	
5	5分		
6	1分	挨拶(協議会への参加案内)	埼玉県

33

## コンテナラウンドユースの紹介・導入促進動画について



### ねらい

- ◆ 輸出入を行う企業に広くCRUを知ってもらう
- ◆ 新規導入者に対するCRUの紹介(仕組み、効果)
- ◆ SCRUの活動のPR

### 用途

- ◇ 国際物流総合展でお披露目
- ◇ その後は、埼玉県CRUのHP以上での公開を想定(企業インタビュー編の取扱は、検討中)

### 動画の構成

- 本編 : 5分程度
- 構成員企業インタビュー編 : 3分程度

事前アンケート 希望10社

**本日撮影!**

	フェース	内容
0	タイトル	コンテナラウンドユースのすすめ ~埼玉県でつながるラウンドユースの輪~
1	課題・問題	➢ 海上コンテナ物流の現状
2	解決方法	➢ SCRUの成果 ➢ 解決方法 ~コンテナラウンドユース~
3	CRU推進の仕組み	➢ SCRU設立の背景 ➢ SCRU ~CRUを進める仕組み~
4	協議会活動	➢ 5回の協議会を開催 ➢ お試しデポ
5	県がめざすこと	埼玉県内の持続的な物流環境を目指して 埼玉の可能性、可能性を実現するために
6	メッセージ	一緒に取り組みませんか?

34



### ◆ マッチングにおける課題

情報共有

コンテナ本数の拡大

CRU新規導入検討企業の取り込み

### ◆ 成立条件に関する課題

内陸コンテナ置場の利用拡大

SOC、内貨転用

コンテナラウンドユースの  
新規導入 **マニュアル**



#### ねらい

### ◆ CRUを行いたい企業の実務に役立つ 手引書

※名称は、今後検討  
「マニュアル」「手引き」「手順書」等

#### 作成方針

◇分科会でもご議論いただきながら作成

#### 用途

◇次回協議会（H29.2.9(木)）での公開を目的に作成  
◇その後は、埼玉県CRUのHPでの公開を想定

#### マニュアルの構成（案）

事例編への掲載希望者募集！

事前アンケート  
希望6社

記載して欲しい内容のご意見募集！

冊子(30頁程度)

項目内容	内容
はじめに	埼玉県から挨拶
序. マニュアルのねらい	
1. CRUとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CRUとは</li> <li>・CRUの効果</li> </ul>
2. CRUの進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CRUの流れ</li> <li>・CRUの留意点</li> </ul>
3. CRUの事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常のCRUの紹介（数例）</li> <li>・先進的なCRUの紹介（数例） SOC、内貨転用</li> </ul>
4. CRUの相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県</li> <li>・協議会構成員メンバー一覧</li> </ul>
5. 活用できる制度等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助制度等の一覧</li> </ul>

## 平成28年度の協議会の活動内容

### ◆ マッチングにおける課題

情報共有

コンテナ本数の拡大

CRU新規導入検討企業の取り込み

### ◆ 成立条件に関する課題

内陸コンテナ置場の利用拡大

SOC、内貨転用

分科会

国際物流総合展

への出展

コンテナラウンドユースの  
紹介・導入促進 **動画**

コンテナラウンドユースの  
新規導入 **マニュアル**

## 埼玉県の方針

- ◆ 埼玉県では、地理的メリットや充実した交通網を活かした社会基盤の整備などを通じ、企業立地の促進や既存立地企業の活動の活性化を図る。
- ◆ また物流効率化に向けた取り組みを積極的に支援し、産業の活性化に繋げていきたい。
- ◆ 本協議会活動により、引き続き官民連携での物流効率化の取組を推進していく。

# 今後も協議会の運営に ご協力をお願いします



埼玉県マスコット「コバトン」

埼玉県でつながるラウンドユースの輪